「初修外国語の世界」の授業に関するアンケート結果の分析

「初修外国語の世界」授業の研究プロジェクトチーム
（西村雅樹，三木直大，岩崎克己，本田和親，田中暁，
井口容子，青木利夫，井上研二，小川泰生，尹光鳳）

〔はじめに〕

「初修外国語の世界」は広島大学で平成９年度から新たに始めた授業である。従来の外国語の授業とは異なり，一部に演習の要素を取り入れつつも基本的に講義形式で授業を行っている。また，ひとつのクラスで扱う言語も１外国語ではなく多数である。平成９年度および10年度の場合，１学期間にドイツ語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語，朝鮮語につき２回ずつ授業を行った。１クラスの規模も，通常の外国語のクラスよりもはるかに多い百数十名程度で実施した。評価は毎回の授業中の小テストと期末試験の成績を総合して下した。なおこれらのテストではマークシート方式を導入した。受講生数は平成９年度が717人，10年度が696人である。このうち総合科学部や歯学部等の学生はこの授業を自ら選択して履修しているが，医学部医学科，生物生産学部，工学部第Ｉ類と第II類の学生は学部や学科の指定授業として履修している。

「初修外国語の世界」は前例のない新たな試みであるため，授業改善の参考に資するため受講生に対しアンケートを実施した。次に記すのが，その内容と結果およびそれに対するコメントである。

「初修外国語の世界」についてのアンケート

「初修外国語の世界」は今年（昨年）からスタートした新しい試みです。今後この授業をより充実したものにしていくため以下のアンケートへの協力をお願いします。回答はマークシートに記入してください。

問１：あなたは初修外国語として現在どの言語を履修していますか。
　１．ドイツ語　２．フランス語　３．ロシア語　４．スペイン語　５．中国語
　６．朝鮮語

問２：今回，アジア系の言語として中国語・朝鮮語を，ヨーロッパ系の言語としてドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語の計６つを取り上げましたが，授業で扱った言語の数はどうでしたか。
　１．多すぎた　２．ちょうど良かった　３．少なすぎた

問２－１：１と答えた人にたずねます。それでは，いくつぐらいが適当だと思いますか。
　（１－５の範囲で選んでください）
問２－２：３と答えた人にたずねます。それでは，他にどんな言語を希望しますか。
　（言語名を記述してください）（平成９年度）
問２－２：この授業で他に取り上げた方が良いと思う言語があれば記してください。（平成10年度）

問３：この授業を受けて，どの言語に特に関心を持ちましたか。（２つ以内で選んでください）
１．ドイツ語　２．フランス語　３．ロシア語　４．スペイン語
５．中国語　６．朝鮮語　７．特になし

問４：個々の言語の授業で扱った分量はどうでしたか。
１．多すぎた　２．ちょうど良かった　３．少なすぎた

問５：授業全体の難易度はどうでしたか。
１．難しすぎた　２．ちょうど良かった　３．簡単すぎた

問６：小テストの難易度はどうでしたか。
１．難しすぎた　２．ちょうど良かった　３．簡単すぎた

問７：授業で使った教科書について質問します。教科書の６つの言語の記述スタイルの中で，どれが特に良いと思いましたか。（２つ以内で選んでください）
１．ドイツ語　２．フランス語　３．ロシア語　４．スペイン語
５．中国語　６．朝鮮語

問８：今回の授業には，各言語の文化や社会についての入門の側面と語学トレーニングの側面の２つがあったと思いますが，あなたは今後この二側面のどちらにより重点を置くべきだと思いますか。
１．文化・社会紹介の側面　２．語学トレーニングの側面　３．どちらも同等に扱う

問９：この授業を受けて良かったと思いますか。
１．とても満足　２．だいたい満足　３．やや不満　４．とても不満

問10：最後にこの授業についてのあなたの感想を自由に書いてください。

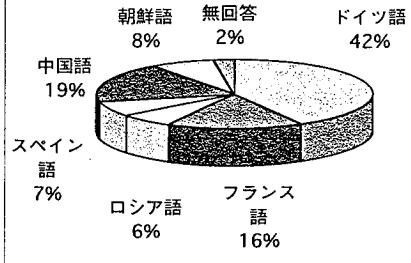
「初修外国語の世界」についてのアンケート集計結果（1997年）

問1	
ドイツ語	237
フランス語	90
ロシア語	36
スペイン語	38
中国語	107
朝鮮語	43
無回答	14
合計	565

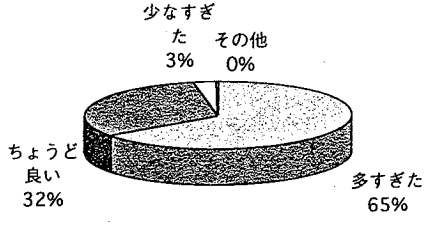
問2	
多すぎた	366
ちょうど良い	182
少なすぎた	15
その他	2
合計	565

問2-1	
1つ	39
2つ	44
3つ	180
4つ	95
5つ	8
無回答	2
合計	368

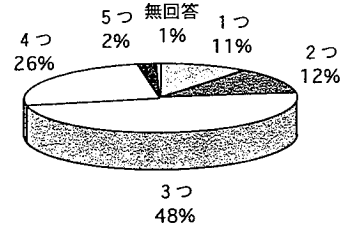
問1：現在初修外国語としてどの言語を履修していますか？(565人)



問2：今回の授業で扱った言語の数(6つ)はどうでしたか？(565人)



問2-1：1と答えた人に。それではいくつぐらいが適当だと思いますか？(368人)

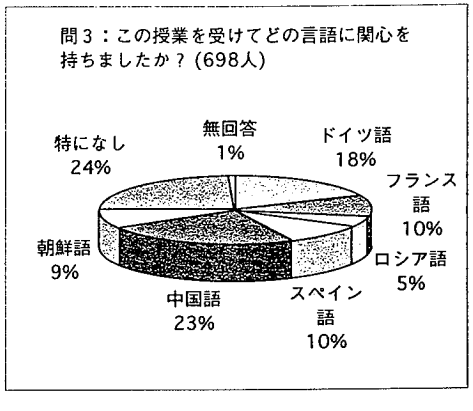


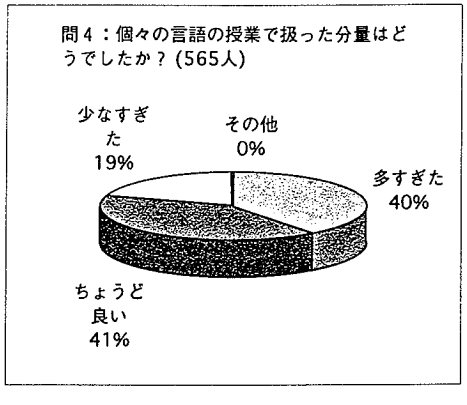
「初修外国語の世界」についてのアンケート集計結果（1997年）

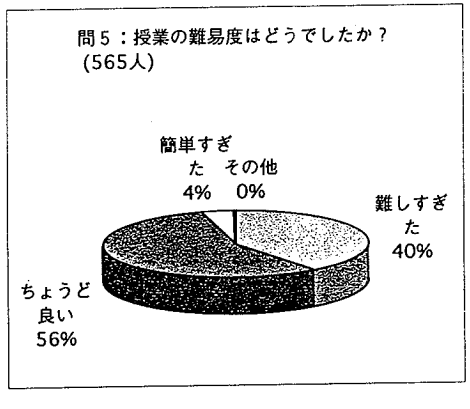
問3	
ドイツ語	128
フランス語	73
ロシア語	33
スペイン語	67
中国語	161
朝鮮語	65
特になし	165
無回答	6
合計	698

問4	
多すぎた	225
ちょうど良い	229
少なすぎた	109
その他	2
合計	565

問5	
難しすぎた	226
ちょうど良い	316
簡単すぎた	21
その他	2
合計	565

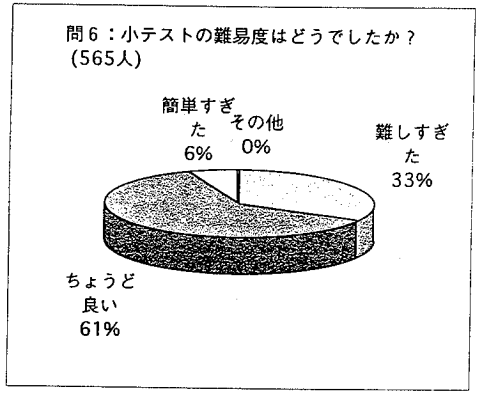




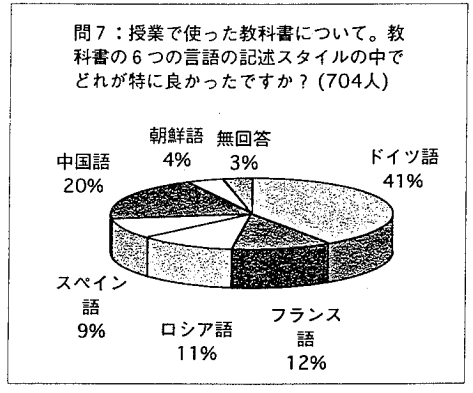


「初修外国語の世界」についてのアンケート集計結果（1997年）

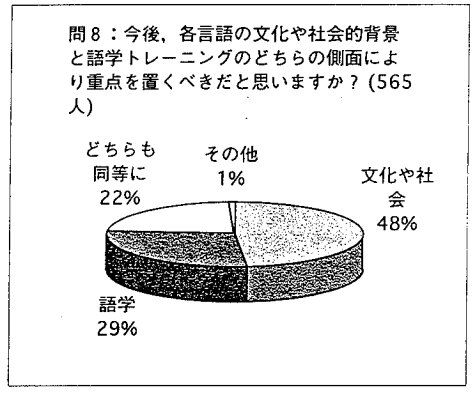
問6	
難しすぎた	186
ちょうど良い	344
簡単すぎた	33
その他	2
合計	565



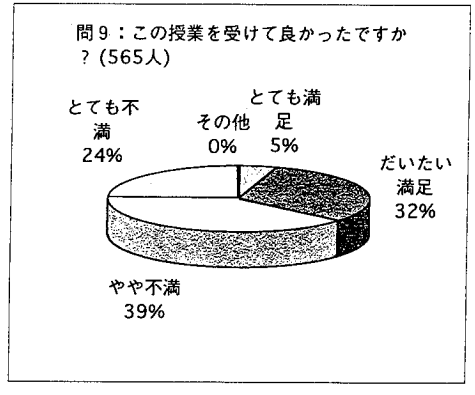
問7	
ドイツ語	287
フランス語	81
ロシア語	75
スペイン語	65
中国語	143
朝鮮語	30
無回答	23
合計	704



問8	
文化や社会	273
語学	162
どちらも同等に	126
その他	4
合計	565



問9	
とても満足	26
だいたい満	180
やや不満	223
とても不満	134
その他	2
合計	565



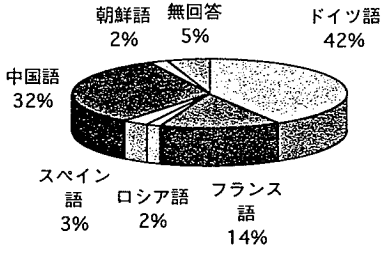
「初修外国語の世界」についてのアンケート集計結果（1998年）

問1	
ドイツ語	257
フランス語	86
ロシア語	11
スペイン語	18
中国語	198
朝鮮語	15
無回答	30
合計	615

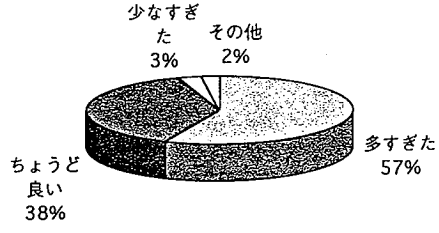
問2	
多すぎた	349
ちょうど良い	235
少なすぎた	17
その他	14
合計	615

問2-1	
1つ	35
2つ	27
3つ	162
4つ	105
5つ	9
無回答	11
合計	349

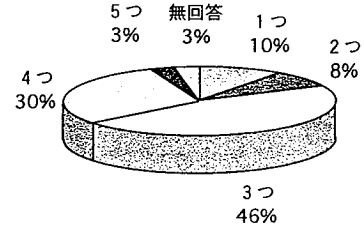
問1：現在初修外国語としてどの言語を履修していますか？(615人)



問2：今回の授業で扱った言語の数(6つ)はどうでしたか？(615人)



問2-1：1と答えた人に。それではいくつぐらいが適当だと思いますか？(349人)



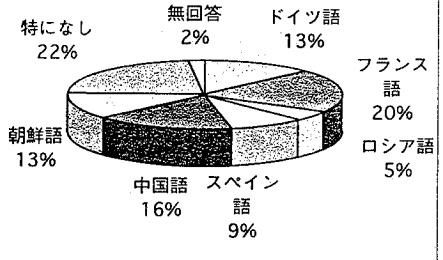
「初修外国語の世界」についてのアンケート集計結果（1998年）

問3	
ドイツ語	109
フランス語	171
ロシア語	40
スペイン語	72
中国語	138
朝鮮語	107
特になし	188
無回答	16
合計	841

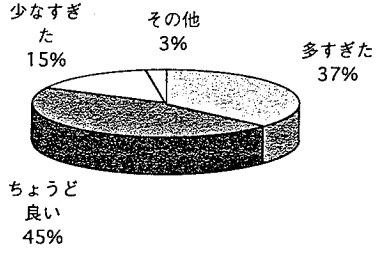
問4	
多すぎた	228
ちょうど良い	279
少なすぎた	92
その他	16
合計	615

問5	
難しすぎた	222
ちょうど良い	354
簡単すぎた	26
その他	13
合計	615

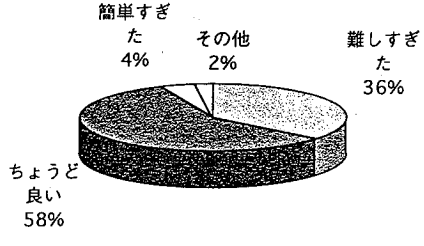
問3：この授業を受けてどの言語に関心を持ちましたか？(841人)



問4：個々の言語の授業で扱った分量はどうでしたか？(615人)



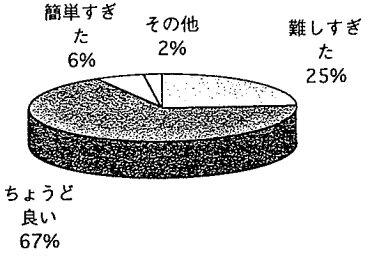
問5：授業の難易度はどうでしたか？(615人)



「初修外国語の世界」についてのアンケート集計結果（1998年）

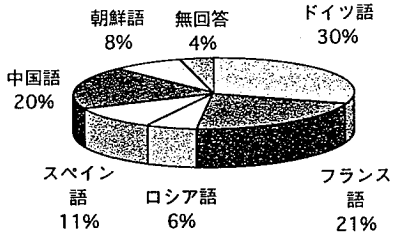
問6	
難しすぎた	155
ちょうど良い	411
簡単すぎた	35
その他	14
合計	615

問6：小テストの難易度はどうでしたか？(615人)



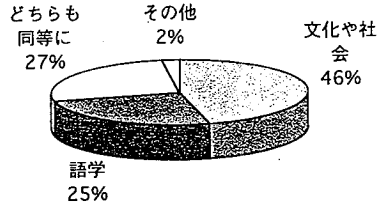
問7	
ドイツ語	251
フランス語	171
ロシア語	47
スペイン語	86
中国語	160
朝鮮語	66
無回答	32
合計	813

問7：授業で使った教科書について。教科書の6つの言語の記述スタイルの中でどれが特に良かったですか？(813人)



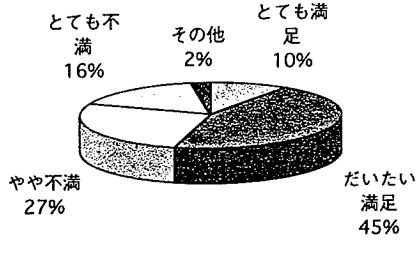
問8	
文化や社会	284
語学	153
どちらも同等に	164
その他	14
合計	615

問8：今後，各言語の文化や社会的背景と語学トレーニングのどちらの側面により重点を置くべきだと思いますか？(615人)



問9	
とても満足	60
だいたい満足	274
やや不満	167
とても不満	99
その他	15
合計	615

問9：この授業を受けて良かったですか？(615人)



〔問いへのコメント〕

問1
履修言語の割合には偏りが見られ，平成9年度と10年度（以下平成を略す）の間でも相違がある。これは広島大学の初修外国語の履修状況をほぼ反映したものである。

問2
授業で扱った言語数が多すぎるという答えが9年度10年度ともに目立つ。この授業は多数の言語に触れさせるという目的を持ってはいるものの，現状の授業形態で6外国語を扱うのは，学生にとって確かに負担が大きすぎると思われる。したがって11年度からは言語数を減らす方向で目下検討を進めているところである。

問2－1
3ないし4言語による授業を望む者が多い。その声には耳を傾けるべきであろう。

問2－2
他にどのような言語を取り上げてほしいかという問いに対しては傾聴すべき回答が得られた。希望者が多い順に列挙すると，9年度では，イタリア語（21人），スワヒリ語（9人），ポルトガル語（8人），ラテン語（7人）である。以下13言語を1人ないし3人の者が希望している。10年度では問い方を改めたため回答数はさらに増え，イタリア語（106人），スワヒリ語（31人），ポルトガル語（31人），アラビア語（16人），ラテン語（12人），ヒンズー語（10人）という結果が得られた。さらに31言語を1人ないし7名の者が希望している。このうち目立つのはイタリア語の希望者の多さである。ことに10年度では受講者の2割近くが希望している。イタリア語を取り入れる可能性について早急に検討する必要があろう。

問3
9年度では中国語，ドイツ語以下他の4言語の順で，10年度ではフランス語，中国語以下他の4言語の順で新たな関心が示されているが，特に大きな差が見られるというほどではない。

問4
個々の授業で扱った分量については，9年度では「ちょうど良かった」という答えと「多すぎた」という答えが拮抗しているが，10年度では「ちょうど良かった」という答えがやや増えている。今後さらに多少減らすよう工夫すべきであろう。

問5
授業全体の難易度については9年度10年度ともに，「ちょうど良かった」という答えが最も多いものの，「難しすぎた」という答えも相当見られる。もう少しわかりやすくする必要があろう。

問6
小テストの難易度については「ちょうど良かった」という答えが多い。この難易度は変えなく

て良いと思われる。ただし各教官ごとの差が極端にならないよう注意する必要はあろう。

問7

教科書の記述スタイルについては，ドイツ語，次いで中国語とフランス語への評価が高い。教科書作成にあたってのこれらの言語執筆者の工夫が支持されたものと見られる。ただし，履修中でなじみのある言語の記述をわかりやすいとみなす傾向があるということも考えられる。

問8

文化・社会紹介の側面に重点を置くべきという答えが半数を占めるが，語学トレーニングの側面を重視すべき，あるいはどちらも同等に扱うべきという答えも無視できない数である。この点については目下慎重に検討中である。

問9

授業の満足度に関しては，9年度では満足した者が4割近くいるものの，不満を示した者が6割を超えているという憂慮すべき結果が出た。この結果を受けて改善の努力をしたためか，10年度では満足した者が過半数に達した。しかしまだ不満を持つ者が4割を越えているのを見過ごすわけにはいかない。ただし不満を持つ者の多くは，概して元来外国語にあまり興味を持っていないにもかかわらずこの授業を受けるよう強制された理系学部の学生である。自らの判断でこの授業を履修した主として文系学部の学生の場合には，満足している者が少なからず見られる。この点からすると，当授業を学部・学科単位で必修として課すことの適否，ならびに選択受講の可能性の拡大に関する見直しが必要である。

問10

〔平成9年度〕

回答者の約三分の二程度が自由記述式のコメントを寄せた。自由記述という性格からして批判的なコメントを中心に回答が集まるだろうと考えてはいたが，それにしても授業それ自体への批判が，これほど多く出てくるとは予測していなかった。批判的コメントは，授業の目的それ自体についてのものと，授業の内容についてのものとに大別できる。

授業の目的に関するものは「目的自体が不明確」「授業の存在自体の意味がわからない」とするものである。また目的は理解できても「言語でこういう形態の授業をやるのは無理」「身につかない」「短期間でやれるはずがない」「中途半端」という意見が多く見られた。また，「やるなら外国語を選択する前の紹介としてやってほしい」という意見もあった。

内容に関するものとしては，「言語数が多すぎて頭が混乱した」というコメントが多数あった。具体的には，「少しずつやっても意味がない」「最低でも一言語に3，4時間必要」「詰め込みすぎで消化不良になる」などである。

ではどうすればよいかという具体的な提言としては「総花的でなく内容を絞れ」という意見が多数見られた。どのように絞るかについては，「言語の歴史や文化の紹介に絞ってやれ」という社会的・文化的背景の方に重点を置く要望と，「文法の説明は最低限にとどめて簡単な会話や挨拶を主にやれ」という初歩的な語学の訓練に重点を置く要望に大別できる。さらに「文化か言語かどちらかに重点を置いてほしい」という要望もある。これは，各言語および担当者による授業

へのスタンスの違いに起因しているようである。

もちろん肯定的なコメントもなかったわけではない。「言語の違いがわかってよかった」「やるならもっと言語数を増やせ」というものもある。それに「言語の背景となる文化の違いがわかる」「いろんな言語に触れられる」「基礎知識が学べる」「やるなら一年間徹底的にやれ」などが続く。ただそうは言っても「面白いが何も残らない」という意見もあったことを特記しておきたい。

また「実際の語学を週2コマやるほうがよい」という意見もあり，批判的コメントを寄せた学生の中には，語学への潜在的な学習意欲を持っている者も相当いるという印象を強く受けた。この授業については将来的には，行う時期や存続まで含めた検討が必要かもしれない。

取り急ぎの改善点としては，授業の目的を教官側が学生に対してもっと明確化する努力をし，教官側の意図をはっきりと学生に伝えることが必要である。また，担当者による検討をさらに加えて，何らかの形で内容を絞ることも必要であろう。

〔平成10年度〕

今年度は昨年度に比べてアンケートを見る限りでは，授業そのものへの「内容が多すぎてかえって中途半端」といった批判は，かなり減ったように思われる。教官側も二年目ということもあって昨年度の反省点を踏まえ，少ない時間数の中で何をどう教えれば，受講学生の興味を引き出し，最後まで関心を持続させられるかの調節ができるようになってきたということもある。「ビデオ教材の活用が楽しかった」「文化的背景がよくわかった」という感想がかなりあるし，試験の方法そのものへの不満も昨年のようには見受けられなくなっている。視聴覚教材を適宜使用したり毎回の試験内容を調節したりといった工夫も，実があがってきたのではないだろうか。具体的な提言もあって，「全員に声を出して発音させてみてはどうか」とか「詳細すぎる文法事項の説明には混乱する」といった声には，耳を傾ける必要があるかもしれない。いましばらく続けていく中で，こうした技術的な問題点はかなり改善されてくるのではないかと思う。また「9・10時限の授業で疲れている」「夏に教室にクーラーが入らないのは苦しい」といった授業環境に対する多数の苦情には，せめてクーラーだけでも対応できないだろうかという思いが強い。

「広く学べて良い」という意見と「多すぎて混乱する」という意見が相半ばするという昨年度から引き続いて最も多く出てくる授業への感想は，この授業そのものの本質を的確に言い表している。言語学を専門にする広範な知識を持った一人の教官が全授業を担当して，その都度各言語を比較しながら授業を進めるといった理想形も，ヨーロッパ語系とアジア語系が混在している現状ではとてもできることではない。かといって世界の言葉に広く目配りするといっても，日本語や英語についての授業は組み込むことができていない。この授業そのものの本質が，どうしても上記のような両様の感想を受講生に抱かせるのは仕方のないところかもしれない。

〔おわりに〕

「初修外国語の世界」は他の大学にもあまり例を見ない新たな試みであるため，以上のアンケート結果から窺われるような問題点を抱えている。このうち，取り扱う語学の数については早速変更を考慮中である。新たに取り入れるべき語学や，学部学科単位での必修・選択の見直しについては，早急に検討する必要がある。またその他の実施上のさまざまな点についても，次年度以降も改善をはかるよう努めなければならない。さらには，この種の授業形態や内容が外国語の授業として適切であるかどうかという根本的な点についても，議論を深める必要があろう。